**講演会**

**テーマ：領土問題に必要な大局的視点**

**講師：西原　春夫　先生**

**早稲田大学名誉教授・第12代総長**

**一般財団法人　アジア平和貢献センター　理事長**

**日時：2013年5月29日（水）13：00－14：30**

**会場：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科　19号館　3階　314教室**

**主催：早稲田大学中華経済研究所**

**共催：早稲田大学アジア太平洋研究センター東アジア地域研究部会**

**世話人：林華生　早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授**

**講師の略歴：**

**1949～56 早稲田大学第一法学部および大学院法学研究科に学ぶ 専門は刑法学。**

**1962～64,79 ドイツMax-Planck外国・国際刑法研究所に研究滞在。1967～98 早稲田大学教授。1982～90 早稲田大学総長。1983～95 法務省矯正保護審議会委員、1991年より会長。1984～92 日本私立大学連盟および日本私立大学団体連合会副会長、1988年より会長。1988～92 全私学連合 (幼稚園から大学までのすべての私学団体の連合体) 代表。1988～95 文部省学術審議会委員、1991年より副会長。1995～98 早稲田大学ヨーロッパセンター (ボン) 館長として徳国・Bonnに滞在。 1998～05 学校法人国士舘理事長。 2008～ 日本日中関係学会顧問。2009～　　社団法人（現在、公益社団法人）日本中国友好協会顧問。ドイツ連邦共和国より第一級功労十字勲章。 中国･上海市より白玉蘭栄誉奨。 日本国より瑞宝大綬章。主要著書：『刑法総論』、『刑法の根底にあるもの』、『21世紀のアジアと日本』、『日本の進路アジアの将来』など多数。**

**講演の要旨：**

**日本は3つの国と厳しい領土問題を抱えている。いずれも国家主権にかかわる事柄だから、国民の民族意識を直接刺激するため、感情的な対立を招きやすい。政府や当局者の行動次第で感情的な対立が戦争につながっていく危険性も否定できない。私は領土問題の解決を考えるにあたっては、大局的視点に立つことがぜひ必要だと考えている。その大局的視点の中心は歴史的視点である。過去から現在を経て未来へとつながっていく歴史の流れ、人類の歴史のまさに本流に根差した未来予測との関連で領土問題の解決策を考えてゆく、その思考回路を皆さんにぜひ共有して頂きたい。**

**＜来聴歓迎＞**